

【十一月の言葉（令和三年）】

欲を少なく 足るを知る心

煩惱のブレーキペダル

「宗教というものを考えた時、それは、一種のブレーキだと思っています」
五木寛之氏の言葉です。

人間とは何か？を説明する上で、「人間＝動物＋宗教」という一つの公式が成り立ちます。動物として生まれた私たち人間には、生きる上で宗教を持つことが必要です。

他の動物は自然界の法則に従順に生きています。しかし、人間は違います。高度な知識や技術を習得し、自然を利用したり、あるいは逆らったりしながら生きてきました。その飽あくなき欲望は、自制心では到底抑えられるものではありません。だからこそ宗教が必要なのです。宗教も多種多様ですから、すべての宗教がブレーキの役割を果たせるわけではありませんが、仏教は「少欲知足」を重んじる宗教です。欲を慎つつしんで、足ることを知る教えです。

生きている限り尽きることのない煩惱ですが、「せめて」「少しでも」という慎む気持ちの芽生えは、これまでの生活を変えていくことでしょうか。

